



信金中央金庫

SCB SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 2022-28

(2022. 6. 24)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <https://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

信用金庫の預貸率（末残）の動向（2021年度末）

とね かずゆき
刀禰 和之

ポイント

- 2021年度末の信用金庫の預貸率（末残）は、49.6%となり、年度末ベースで2015年度末（49.9%）以来の50%割れとなった。
- 地区別の預貸率をみると、最も高い東京の54.2%から四国の38.2%まで10ポイント超の開きがみられる。また、2011年度末との比較では東京が上昇し、他の10地区は低下した。
- 信用金庫別の預貸率を2011年度末と2021年度末で比較すると、上昇が72金庫に対し低下は182金庫に達した。
- 2021年度末の信用金庫別の預貸率は、①40%未満が53金庫、②40%以上60%未満が176金庫、③60%以上は25金庫となった。

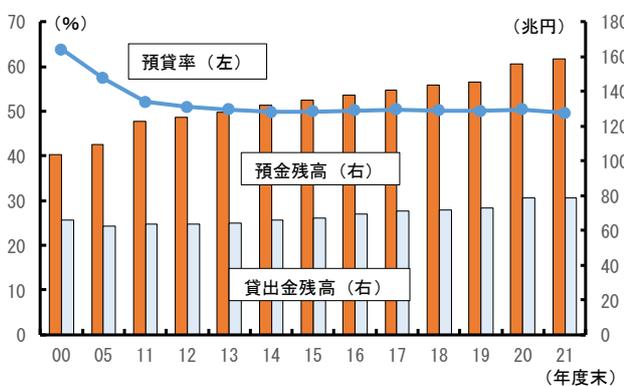
※本稿では預貸率を貸出金残高（末残）÷預金残高（末残）で算出している。

1. 全国の場合

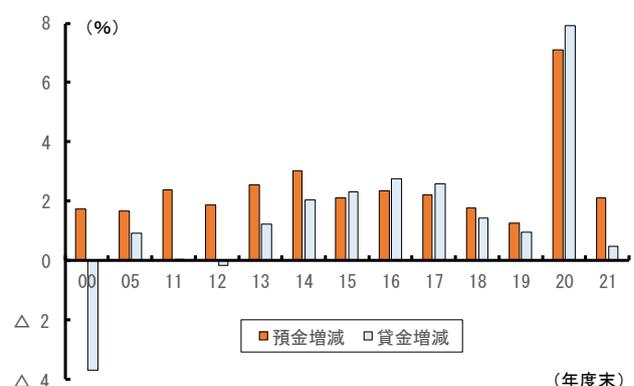
2021年度末の信用金庫の預貸率（末残）は、前期比0.8ポイント低下の49.6%となり、年度末ベースで2015年度末（49.9%）以来の50%割れとなった（図表1）。2011年度末からの変化をみると、預金残高が29.5%増加したのに対し、貸出金残高は23.5%増に留まり、結果として預貸率が52.0%から49.6%に低下した形である。

また、預貸金残高の前期比増減率（寄与度）をみると、2020年度末はコロナ対応により預金、貸出金ともに大きく伸びたものの、その反動減もあり2021年度末の伸び率はそれぞれ2.1%、0.4%になった（図表2）。

（図表1）預貸率の推移



（図表2）預貸金残高の前期比増減率



- （備考）
1. 本稿では、他業態との合併等を考慮しない。
 2. 本稿では、切捨ての関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
 3. 図表1から5まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2021年度末の地区別の預貸率は、東京が2011年度末比0.9ポイント上昇し、他の10地区は2011年度末から低下した（図表3）。なかでも東海の5.3ポイント低下、北海道の4.8ポイント低下が目立つ。また、東京、九州北部、南九州、近畿、中国の預貸率が50%を超えた一方で、四国は38.2%に留まるなど、地区によって預貸率に差がみられる。

（図表3）地区別の預貸率

（単位：％、ポイント）

地区	00年度末	05年度末	11年度末	20年度末	21年度末	比増減P			
						00年度末	05年度末	11年度末	20年度末
北海道	55.0	52.8	46.7	43.1	41.9	△ 13.0	△ 10.8	△ 4.8	△ 1.1
東北	62.6	57.8	48.7	45.2	44.6	△ 18.0	△ 13.2	△ 4.0	△ 0.5
東京	67.5	60.2	53.3	55.6	54.2	△ 13.3	△ 5.9	0.9	△ 1.4
関東	62.7	56.8	51.0	49.5	48.8	△ 13.9	△ 8.0	△ 2.2	△ 0.7
北陸	63.6	55.6	47.8	44.8	43.7	△ 19.8	△ 11.8	△ 4.0	△ 1.0
東海	60.7	55.2	52.6	47.8	47.2	△ 13.4	△ 7.9	△ 5.3	△ 0.5
近畿	65.7	58.0	53.2	52.6	52.0	△ 13.7	△ 5.9	△ 1.1	△ 0.5
中国	64.2	57.0	54.6	52.1	51.4	△ 12.8	△ 5.6	△ 3.1	△ 0.7
四国	62.2	53.3	42.5	38.6	38.2	△ 23.9	△ 15.1	△ 4.2	△ 0.4
九州北部	65.7	60.9	57.6	54.0	53.7	△ 11.9	△ 7.1	△ 3.8	△ 0.2
南九州	67.7	63.3	55.8	54.3	53.2	△ 14.4	△ 10.0	△ 2.5	△ 1.0
全国	63.7	57.3	52.0	50.4	49.6	△ 14.1	△ 7.7	△ 2.4	△ 0.8

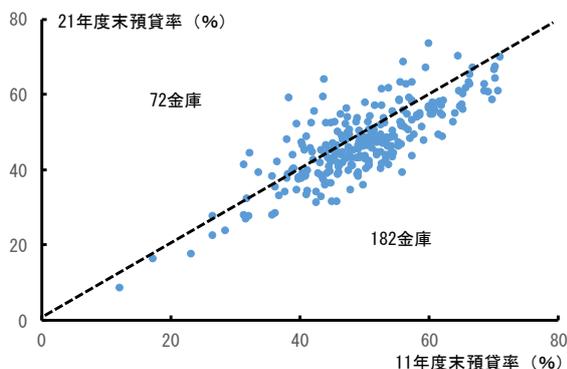
（備考）沖縄県は全国に含む。

3. 信用金庫別の状況

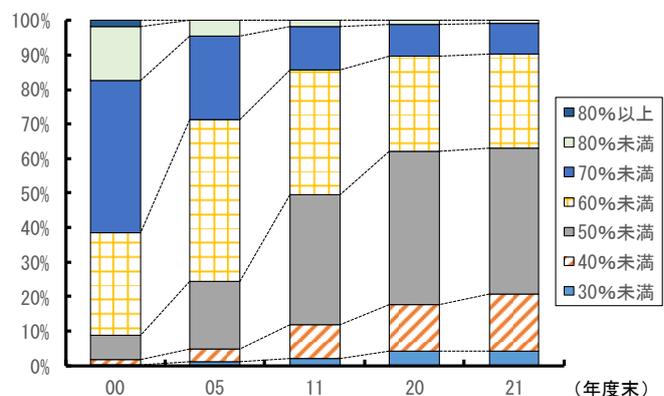
信用金庫別の預貸率を2011年度末と2021年度末で比較すると、①上昇が72金庫（構成比28.3%）、②低下は182金庫（同71.6%）となった（図表3）。なお、この10年で預貸率が10ポイント以上上昇した信用金庫は10金庫ある。

次に2021年度末の信用金庫別の預貸率は、①40%未満が53金庫（同20.8%）、②40%以上60%未満が176金庫（同69.2%）、③60%以上は25金庫（同9.8%）となった。そのうち70%台の信用金庫が2金庫ある一方で、20%未満は3金庫あった。2011年度末の構成比と比べると、40%未満が11.8%（32金庫）から20.8%に上昇し、60%以上は14.3%（39金庫）から9.8%に低下している。

（図表4）預貸率の変化（11・21年度末）



（図表5）信用金庫別の預貸率



以上

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。